



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 03200797 A

(43) Date of publication of application: 02 . 09 . 91

(51) Int. CI

C07K 13/00 C12N 15/31 // C12P 21/02 (C12N 15/31

(C12N 15/31 , C12R 1:19), (C12P 21/02 , C12R 1:19)

(21) Application number: 01135781

(71) Applicant:

KAJI AKIRA

(22) Date of filing: 31 . 05 . 89

(72) Inventor: KAJI AKIRA

(54) NEW PEPTIDE AND NEW DNA

sequence expressed by the formula.

objective peptide expressed by the formula.

COPYRIGHT: (C)1991, JPO& Japio

(57) Abstract:

NEW MATERIAL:A peptide having an amino acid

USE: A protein synthesis promoter for promoting elimination of a ribosome from mRNA in synthesizing a protein by Escherichia coli.

PREPARATION: For example, a gene capable of coding a peptide (RRF) expressed by the formula is collected from regions 2 to 6 in linking F-pilli of Escherichia coli to carry out treatment with a restriction enzyme. The resultant gene is then linked to an expression vector prepared by treating a plasmid proliferative in the Escherichia coli with a restriction enzyme to provide a recombinant plasmid, which is then inserted into a host such as the Escherichia coli to carry out transformation. The obtained transformant subsequently cultured using a high phosphoric acid-casamino acid culture medium, etc. After completing the culturing, the Escherichia coli is ultrasonically crushed and centrifuged to collect a supernatant as a water-soluble fraction. DNA, RNA, etc., are precipitated and removed to collect a crude fraction by precipitation with ammonium sulfate. The collected fraction is then

subjected to chromatography and purified to afford the

Antite Control of the Control of the

(全5頁)

@ 公 開 特 許 公 報 (A) 平3-200797

®Int. Cl. 5
C 07 K 13/00
C 12 N 15/31
// C 12 P 21/02
(C 12 N 15/31
C 12 R 1:19)
(C 12 P 21/02
C 12 R 1:19)

⑩公開 平成3年(1991)9月2日

8717-4B C 12 N 15/00 審査請求 未請求 請求項の数 3

の発明の名称 新規ペプチドならびに新規DNA

②特 願 平1-135781 ②出 額 平1(1989)5月31日

の発明者 梶 の出願人 梶

;)

昭 東京都東久留米市大門町 1-1-9 昭 東京都東久留米市大門町 1-1-9

明細

1.発明の名称

─ 新坂ペプチドならびに新規DNA

2 . 特許請求の範囲

(1)下記のアミノ酸配列

RetiloSerAspileArgLyeAspileGluValArgEetAsp LyaCysTalGludlePhebysThrGlaileGerLyrlleafe ThrGlyArgdisSerProSerLeuLeudappGlylleVsiVel GluTyrfyrGlyThrProTheProLeudappGlylleVsiVel TalThrTalGludapSerArgThrLeuLyrlleAsaNalPhe AspArgSerNetSerProAlsTalGluLyaAlalleEetAla SerAspleuGlyLeudasProAssSerAlaGlySerAspile ArgValProLeuProProLeuThrGluGludardargty-reasp LeuThrLyrlleValArgdigludalGluGludaplargty-AlaVelArgdanVslargdrgaapalaasanapyvVsiLyra AlaLeuLeuLyrAspLyrGludleSerGludaplaplaparg ArgSerGlaapapvsiGludysLeuThrAspilaalala LyrLyrlleGludalalalaevalaapLyrCludagGluLeu

からなる新規ペプチド。

(2)下記のアミノ敷配列

SettieSerdepiledrejyedepüleCiuveldregketdep LycyvytaldiudiePhelyeThrCilaileSertyelledre ThrCilyArgdiaSerProSerteuteeddepCiyilevilval ClufyrTyrCilyThrProTheProLeedregiistedexisSer ValThrVelCiudepSerdregThrLeedrejiledeanValPhe depireSerfeciSerProdieValCiudyediaileNetdis SerdaelouCiyteudarProdaeSerdaiciySerdaepile ArgtsiProLeeProProLeuThrCiuCiudradregtetyade LeuthrtyellevaldregtyGiudiaGluGiadiantargVal AltTaldregaevValdregtyGudiaGluGiadiantargVal AltTaldregaevValdregtyGudiaGluGuapdaepdepdre ArgtsiProCeuthregiudieSerCiudepdaepdepdre ArgtsiProCeuthregiudieSerCiudepdaepdepdre ArgtsiProCeuthregiudieSerCiudepdaepdepdre ArgtsiProCeuthregiudieSerCiudepdaepdepdre

からなるペプチドをコードする新規DNA.

(3) 下記のフェノ放配列

WetlieSeraspileArglysaspalaGluVslargWetasp LysCysTslGluAlaPheLysThrGlnileSerLyslieArg ThrGlyArgAlsSerProSerLeuLeuAspGlylleVslVsl GIUTyrtyrGiyThrProThrProLeukraGizLeuklaßer
ValThrValGiukapSerkrtThrLeutyallekarValPha
kappargSerWeiSerFroikutyalGiutyakiallekeikia
SerkapLeuGiyLeukanArokeaSeraliaGiySerkaplle
kaptalProLeutyrofroleuthrGiuGlukrakratprakap
LeuthrtysliteValkrgGiyGluklaGluGiakrakratprakap
kauthrtysliteValkrgGiyGluklaGluGiaklakrgVal
klaValkrgkavValkrgGiyGluklaGluGiaklakrgVal
klaValkrgkavValkrgdiyGluklaGluGiakapkapkap
krgderGlakpkaspinGlulkeuthrkapklaklaile
LyaLpalloGluklaklaLeuklakapLycGluklaGluLeu

本発明者は、既に、本発明者等が報告したアッ

セイ方法並びに精製方法(Biochemistry.11.4037 ~4044(1972)) により、その活性を確かめながら、 精製し、NI宋郎分のアミノ酸配列を分折し、その アミノ酸配列を基に、DKAプローブを合成し、大 国産の遺伝子パンクよりスクリーニングし、 過当 なベクターに組み込み、大鍋廟で発現させること に成功し、本発明のペプチドを提供するに至った。 即ち、本発明は、下記のアミノ兼配列 MetileSerAspileArgLysAspAlsGluValArgMetAsp LysCysValCluAlsPheLysThrGlalleSerLyslieArg Thr GlyArgAlaSerProSerLeuLeuAspGlylleValVal GluTyrTyrGlyThrProThrProLeuArgGlaLeuAlaSer Vs | Thr ValGluAapSerArg Thr LeuLys | LeAs a ValPhe AspargSerMetSerProAlmValGluLyaAlalieMetAls SerAspLouGlyLouAsnProAsnSerAlaGlySerAsplie ArgValProLeuProProLeuThrGluGluArgArgLy # Asp LeuThrLyslleValArgClyCluAlaGluGlnAlaArgVal AlaYalArgAsnYalArgArgAgpAlaAsnAapLysYalLya AlaLeuLeuLysksplysGlulleSerGlukapAspAspArs

CATETO ACCA ANATOCTTO TO GTO AGOLGO ACCAGOCOCT CTTOCACTACCTALCOTOCOTCOTO ACCOGAL CO ACCAGOTA AMACCACTETTO ANAGATA ALGORATCA COGA CACCACCAT COCCOTTOTO AGOLGO ATTACAGA ACCTGACTO ATGOTOCA ATCAAGA ANATTO AAGOCCOCOTOG COGA CANAGA CACCAGA CTOATOCACTTOTO

である新規 DNA。 3、発明の詳細な鮮明

[産業上の利用分野]

本見明のペプチド(BBF)は、大脇間における異 自合成過程において、リポゾームの#31Aからの競 数を促進するペプチドであり、主体外でのペプチ ド合成を工業的に行う際に、その重要性が解除で まるものである。

[従来の技術および課題]

従来、その存在と機能については、本発明者等が報告していた(Siochesistry,II,4637-4644(1972))が、BRFを大量に主席せしめた例はなく、その選択的大黒生産が求められていた。 「雑組を解決するための手段]

ArgSerClnAspAspVelGinLysLeuThrAspAlaAlaile LysLyslleGluAlaAlaLeuAlsAspLysGluAlaGluLeu WelGlsPhe

からなる新規ペプチドおよびその構造遺伝子ならびに製造方法である。

上近した本発明のペプチドアミノ像配列および 以下の説明においては、Valiは、パリン、Argit、 アルギニン、Serit、セリン、Thrit、スレオニン、 Proit、プロリン、Lysit、リリン、Alait、アラ ニン、Eistは、ヒステリン、Asait、アスペラギン、 Clait、グルクミン、Cluit、グルクミン酸・Cli は、グリシン、Leuit、ロインツ、Aspit、アスペ ラギン酸、Tyrit、テロレン、Ileit、イソロイレ ン、Fheti、フェニルアラニン、Cysit、システイ ンの各種基金生物する。

本発明の新規ペプチドは、大鵬商等を用いた選 任子組換え途により、容易に大量生産できるという特徴を有しているので、遺伝子組換え法により 生務するのが好ましい。

以下に、本発明の斯規ペプチドの製造方法につ

いて、袋切する。

()構造遺伝子の入手

本発明のペプチドの構造建伝子を倒えばジーン ライブラリー例えば、CierkとCarbonの遺伝子パ ンク (Cell. 9. 91-99(1976)) より、適当なプロー ブを用いて、約取するのが好ましい。特に、本発 町夫は、RRFの液伝子が大腸肉のF編系接合物の2 から6分類はになたせることを確認しており、こ の部分の遺伝子パンクより約取することが特に好 ましい.

2) 発収ペクターの調製

本春明においてはその発現のためのプロモータ - 等の発現システムを育し、大場国内で増殖可能 なさまざまなプラスミドを用いることが可能であ り、それらのプラスミドを顕彰するにあたっては、 公知の常法に従って行うことができるが、市販の 発現プラスミドを利用することも可能である。 これらのプラスミドに前記の本発明のペプチド の構造遺伝子を含むDEAを一般の遺伝子組換えの 操作によって組込むことにより、プラスミド組換

以下、本発明について、実施例を示し、説明す δ.

[SK # # #]

1、RRFeD#Aを含むプラスミドの単離

本発明者等の報告 (Biochemistry, 11,4037-4044(1972)) したポリゾームを用いた RRF活性の ファセイ方法を指揮として、E.coli WRE600株の リポゾーム洗浄液より本発明者等の報告 (Biochesistry, 11, 4037-4044(1972)) した精製 方法でRRF毎白を特製して、MaDodSo.を含有する ポリアクリルアミドゲル双矢放動により、その地 ガを吹かめた、特別したRRF蛋白 460usをRrCV 420 mまとを充温、温光下で、805年酸 50 mを中で24 時間反応させた。この反応を450mgの精製水を加 えて停止せしめ、凍結乾燥後、再度0.1%トリフロ 酢酸食有 8% 展業水溶液50mgに溶解し、セファデ ックスG50カラムに付し、0.15トリフロ酢酸で溶 出して、2種のフラクションを得、それぞれ、彼 結乾燥し、アミノ酸配列分析に供した。これを、 プロティンシークエンサー (アプライドバイオシ まひ子を揺れせる

3) 組換え体の作成

常法にしたがい、この組み換え分子を用いて過 当な大福田株を形質転換し、形質転換体を得る。 4) ペプチドの生産

形質転換体の培養に当たっては、L-培地、189塔 放、 M9-カザミノ 酸培物。 高リン酸活物、高リン 般・カザミノ酸培地等を用いることができ、これ らにおける培養により本発明のペプチドを豊産す スニンができる。

5)ペプチドの練型

大協図で発現したペプチドは、大脳圏を超音波 軽朴後、進心分離することによって、水溶性菌分 としての上滑を得、これにポリエチレンイミン等 を加え、DNA、RNA、リゾソームを注釈させて除き 進心分離して上疳を得る。この上疳より、硬安は 最の手法を用い、担分器を集め、更に遺析、除イ オンクロマトグラフィー等を行い辞製できる。

更に純度を上げるため、特異抗体を用いたアフ イニティークロマトグラフに付すのも好ましい。

ステム 470Å) に付し、一方のフラクションの 8束 V = 7 % V % M . AleSertenleuGivleutseProten SerAiaGiySerAspileArgVaiProLeuProProLeuT & ることを確かめ、DNA合成機(アプライドバイ オシステム社製)により大編團の利用コドンより 推定した3'-TACCGCAGACTGGACCCAGACTTGGGCTTGCCA CGCCCAAGACTGTA(47塩基)を合成し、RRF遺伝子の プロープとし、5°末端をT4ポリヌクレオチドキナ ーゼ及び (t-**P)ATPを用いて**Pラベルした。 Clarkと Carbonの遺伝子パンク (Cell. 9. 91-99) の内、0~10分類はから20クローンを選出し、アル カリ融解を用いたミニプレバレーション法 (Maniatis T.他、Molecular cloning(1982))でも れぞれのプラスミドを掴た、サザンハイブリダイ ズ注 (Southern E.M., J. Wol. Biol., 98, 503-517(19 75))に従い、このプラスミドをアガロースゲルよ り MYTRAN版に移し、プレハイブリダイズした後、 5× Denharta容減、0.5% NaDodSO.、100µg/ag 酵 冊 18#4 おおのがポプローブ(47 HL E)(0 6×10* cpm/3.3pmoie)を含有する6×SSPE(1×SSPE:0.18M

BaC1、 8.04M リン酸ナトリウム(pH. 7.7)、i=M EDTA)が成2e(中で、31で、28時間ハイブリダイ せした後、15 FabodsO.4を含すするIV SSPF的複で 表待した対2、プラス(Folice-37ic ISF)が位そが 存在することを確認し、制限が来をoRiで前化し で1.216の適位子フラグメントを回収した。この ラグメントには、28Fの開始コドンから後止コ ドンまで(SSE4M 入)が変をに含まれていた。

2. 遺伝子の乳泉

> 要に、上足の1.2kbのフラグメントのうちの5=al および5<00 kim 化フラグメント(6.3kb) を同様に p1C19ペフターにライゲーションしてトランスフォームした場合は、大鍋畑の総質白の105以上が21F であった。

これらの大調菌の抽出液のRRF活性を測定した ところ、通常の大調菌に比べ圧倒的に高いRRF活性 がUNられた

3 . RRFO 18 BU

この国体波より、本発明者等の報告 (Biochemistry, 11, 4037-4044(1972)) したポリ ゾームを用いたRRF活性のアッセイ方途を指標 として、DHSa/pBEFの国体溶出版より、本発明者 の報告(Biochemistry, 11, 4037-4044(1972)) した材製方法でRRF型白(分子景約20,000グルトン)を掲載した。

4. DXAシークエンスの解析

また、pRRIを制限酵素 EcoRI、Saal、Sau3A1お

ナトリウム存在下、2倍量のエタノールでDHAを注 殺させた。このD8Aを1.2% アガロースゲル電気法 動に付し、2.2kbのフラグメントを得た。Dunals らのゲル内ライゲーション法(Biotechniques.5. 62-61(1987))により、このフラグメントとあらか じめEcoRI前化し、牛小鍋ホスファターゼで払渡 したpUC 19ベクターをライゲーションし、このち イゲーション混合物10xeをE.coli DHSa 50xeにト ランスフォームし、50xg/mt アンピシリン、2\$ X-Gal 50#0を含有するL-協助プレートに扱いた。 白色のコロニーとして、ブラスミドを含む顔を得。 これらのうちから、サザン佐により、pUC 18に RRFの遺伝子を含む2.2kbのプラスミドの組み込ま れたプラスミド(pRR1)を含む微(DH5a/pRR1)を存 た。この間を培養し、Caskeyらの方法(). Bacteriol..158.365-368(1984))で期製した磁体 分解物の経蛋白をSDS電気泳動に付し、ゲルをク マシブルー染色し、Bradfordの方法(Ansl. Bioches...72.248-254)で定量した。ここで、大幅 図の秘景白の10%以上がRRFであった。

よび Ballで 柄化してえられたフラグメントについ てリデオキン性により DBAシークエンス分析を行っ たところ、 BBFの 関始コドンから終止コドンまで の DBAシークエンスは、

の (558塩 基) で あ り 、 そ の D N A シ ー ク エ ン ス に 対 む す る ア ミ ノ 酸 シ ー ク エ ン ス は 、 tetileSeraspilearglysaspäleGiuVelärgBeiäsp
LysdysVeldiuklePhelysThrGialioSerLysliarg
ThrGirärgäisSerProSerLeuLeuäspGiylieVelVai
GiutyrfyyGiyThrProThrProLeuäspGiaLeuäisSer
VaiThrYsidiukaspSerägThrLeulyslialeasvälPhe
AspärgSerBeiSerProAlsValGiuLysälaileBeiäis
SeräspleuGiyLeuässProassSeräisGiySeräspile
ArgfaiProLeuProProLeuThrGiuGlusrafarglysäsp
LeuThrUsslieväidrgfagaspäladasäsplysvältyAlsteiArgdasvValärgärgdaspäladasäsplysvältyAlsteiArgdasvValärgärgdaspäladasäsplysvältyAlsteiArgdasvValärgärgdaspäleänsäspäspäärgä
ArgSorGinaspäspäysiGialyseLeuThräspäleälelee

であり、1857ミノ酸、分子品 20.639であることが確認され、上記で得られた蛋白に対応するも